



御城番通り線



DATA・BOARD 19



- ① 三重県松阪市殿町
- ② 延長160m, 幅員5m
- ④ 石畳舗装

御城番通り線と呼ばれるのは、松阪公園近くの御城番屋敷を通る市道で、この通りに石畳舗装をはじめとする景観整備事業が行われた。

御城番屋敷は江戸時代末期に松阪城の警護にあたった紀州藩士とその家族が住んでいた屋敷町で、主屋二棟と前庭、畑地、土蔵、南龍神社からなり、約一ヘクタールの敷地の周囲にはマキの垣根がめぐらされている。

このすぐれた環境を将来的に維持していくため、市道の石畳舗装化とともに電柱・テレビアンテナの移設などが行われた。また、主屋一棟を借り受け、当時の姿に復元整備して一般に公開している。

この整備事業により石畳と屋敷町が松阪公園の石垣と調和した静寂な空間を生み出し、市内の新しい名所となった。